



# 草創



## 学校教育目標

- 自ら考える生徒（創造）
- 思いやる生徒（誠実）
- 行動する生徒（自主）
- きたえる生徒（健康）

北広島市立西部中学校 学校だより

臨時号

令和3年10月29日発行

## 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果

4月に実施いたしました全国学力・学習状況調査（第3学年実施）につきまして、10月8日に個人表を配付いたしました。併せまして、本校の状況に関しまして分析がまとまりましたのでお知らせします。

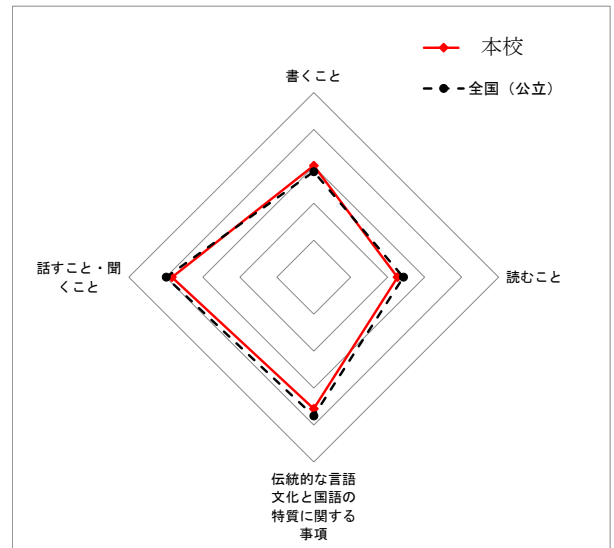
**国語** 全国の平均正答率と「同様」の結果でした。

### <領域別>

- 「書くこと」の領域は、全国平均と比べて、やや高い結果でした。
- 「話すこと・聞くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、全国平均と比べて、やや低い結果でした。

### <問題別>

- 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書いたり、伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く問題はよくできていました。日頃から授業などで書くことに力を入れている成果と考えられます。
- 一方で、事象や行為などを表す多様な語句について理解する問題や文脈の中における語句の意味を理解する問題に課題が見られました。



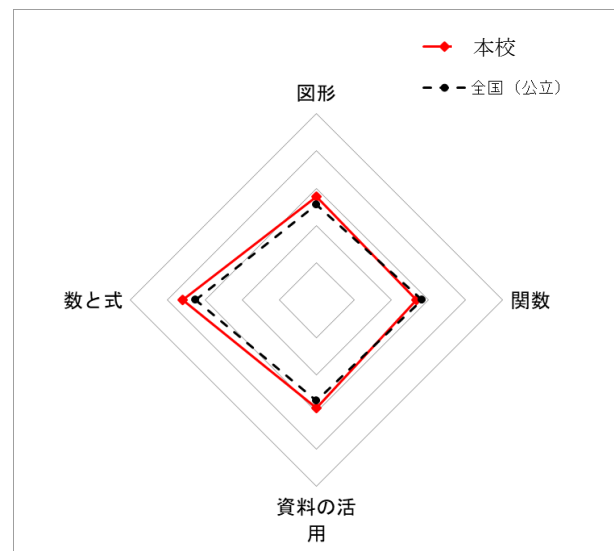
**数学** 全国の平均正答率より「やや高い」結果でした。

### <領域別>

- 「数と式」「図形」「資料の活用」の3領域で、全国平均と比べて、やや高い結果となりました。
- 「関数」の領域で、全国平均と「同様」の結果となりました。

### <問題別>

- 全国と比べ、数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明する問題がよくできていました。TTによる指導や放課後学習などで基礎基本の徹底が図られ、数学的な見方や考え方ができるようになってきていると考えられます。
- 一方で、経過した時間と影の長さの関係を「…は…の関数である」という形で表現する問題において、課題が見られました。



## 生徒質問紙から

質問紙は、基本的に「1、当てはまる」「2、どちらかといえば当てはまる」「3、あまり当てはまらない」「4、当てはまらない」を選択して回答します。

### 【基本的生活習慣に関して】

- 「朝食」「就寝」「起床」についての項目で、本校生徒は1、または2と回答した生徒が多く、規則正しい生活を送ることができていることがわかります。
- 「普段の日の学校の授業時間以外の学習時間」では、1時間未満と答える生徒の割合が、前年度よりも多くなっており、家庭学習の習慣化が課題となっています。
- 「学校の授業時間以外の1日当たりの読書時間」では、10分未満と答えている生徒が半数程度います。

### 【自己有用感に関して】

- 「自分には良いところがある」において、1または2と答えた生徒の割合が9割を超えています。
- 「将来の夢や目標をもっている」において1または2と答えた生徒の割合が約8割います。
- 「学校に行くのは楽しいか」において、1または2と答えた生徒の割合が約9割います。
- 「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦しているか」では、若干昨年度よりも後退しており、新型コロナ禍における様々な活動の延期や中止が影響していることもうかがえます。

### 【地域や人との関わりについて】

- 「地域の行事に参加している」で約9割の生徒が1または2と答えています。
- 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」も全国平均を大きく上回っています。
- すべての生徒が「人の役に立つ人間になりたいと思う」で、1または2と答えました。

### 【学習指導に関して】

- 「話し合う活動で、相手の話を聞き、理解し、自分の考えを伝えていた」という項目で全国平均を大きく上回っています。
- 「休校中の勉強への不安」については、7割以上が「不安」と答えています。

## 調査結果を踏まえた今後の学校での主な取組

- 国語において、「読むこと」の学習を深めていくために、単に「読書」の呼びかけを強化していただくだけでなく、読むことの目的や意図を明確にし、普段から読むことで何を得て、どう活用するのかという意識をもって、文章を読んでいくよう指導していきます。
- 日々の授業の中で、「課題」「まとめ」「振り返り」などのカードを提示し、学習内容に見通しを持って主体的に取り組めるように進め、新型コロナが落ち着いた時には、今まで以上にペア学習やグループ学習を取り入れて対話的な学びを充実させ、深い学びにまで到達できるように授業改善を行います。
- 数学において、成果が表れているので、これまで行ってきたTTによる指導や習熟度別少人数指導、放課後学習、長期休業中等による補充学習を今後も充実させていきます。
- 一人一台の端末（ICT端末）等を活用し、新型コロナ禍においても「学びの保証」ができるよう、工夫していきます。
- 西部地区の「地域との深いつながり」を今後も発展させ、生徒のコミュニケーション能力を高め、人間関係作りや地域社会の一員としての自覚の形成に役立てます。
- 学校生活のあらゆる場面において、生徒が生き生きと活動し、仲間や教師に認められ、今後も自己有用感が高まるように、全教職員で「笑顔」「健康」「活気」を意識して教育活動にあたります。